

稲穂北に輝く



令和4年度 穂北中学校だより

11月号



にぎりめし



穂北中HP

校長

伊東 泰彦

質の高い学習発表会になりました！

10月8日(土)、学習発表会を開催しました。働き方改革や行事の精選、コロナ禍の影響などで、従前の文化祭的な行事は縮減の傾向にあります。本校では、さいと学の発表会

と合唱コンクールをメインに据えたプログラム構成をしていますので、発表の準備はさいと学の時間内で準備を進めましたし、合唱の指導は音楽の鬼塚先生が主導してください

いますので、比較的スムーズに準備や取組が進みました。テーマ看板は、実行委員会の設定テーマに基づいて、いつものようにFreeStatが作成されました。今年は、神楽や

ギター弾き語りなど、学校教育外の活動に関する個人発表も行われ、アカデミックな雰囲気も醸し出される一日となりました。穂北中の挑戦と実践が体感できました。



穂北中フリースタッフが制作したこの看板には、様々な思いが込められています。まず、右上の扉は私たちの将来に広がる無限の可能性への扉です。その扉に向かって続く階段ですが、未来の扉に向かうための私たちの様々な努力、つまり「自分みがき」を表しています。最後に、その階段へ向かって広がっている両方の手のひらですが、この両手の広がりこそが、今日、今から私たちの発表する学習発表や合唱、展示品などのパフォーマンスを表しています。今日のために重ねてきた努力を経て、私たちは新たな未来へと自分を磨いていくのだと思っています。昨日を重ねて今日が、今日を重ねて明日が、そして明日を重ねることで未来につながるのです。これまで継承してきた伝統を、新たな伝統へつなぐ発表会にしましょう！



▲実行委員と生徒会の挨拶



神楽を舞う堀内悠陽くん(2年)

穂北神楽

穂北神楽は、豊作と子孫繁栄を願う神楽です。地域に祭られる神々への祈りが舞いに込められ、長年にわたって受け継がれてきました。

この日は、穂北神楽伝承者の一人である2年生の堀内悠陽さんが、東西南北の4人の神様が登場する16番・「四方鬼神(しほうきじん)」を舞ってくれました。

[次ページに続く]

合唱コンクールは、昨年以上に質の高い歌声が響き渡りました！



▲1年「花は咲く」

指揮：川北莉子、伴奏：久保愛菜

▲2年「ちっぽけな勇氣」

指揮：橋口慶到、伴奏：中島虎太郎

▲3年「正解」

指揮：宮本孝志、伴奏：谷川向日葵



3年

各学年の「さいと学」発表



1年



2年

3年)「FutureWeWant」 8月1日の「さいと学アワード」に向けて5つのグループが探究した地域活性化プロジェクトを発表してくれました。3年生の堂々とした質の高い発表を、1・2年生も見ることができ、今後の学習や意欲喚起につながる発展的な発表になりました。

2年)「西都の魅力・再発見」 修学旅行先での学びをもとに、県外と県内・西都とを比較する新たな探究課題を設定し、それを追究する内容でした。火山と西都原台地との関係、明治期の偉人の違いなど、課題設定に至る気付きや視点の鋭さが際立っていました。

1年)「ふるさと学習」 杉安井堰や記紀の道、石井十次の業績などを、ニュース形式でリレー発表していくというユニークな設定でした。自作の現場レポート動画などもあり、一年生の新たなパワーや潜在力を感じさせてくれる、とても面白い発表でした。

英語暗唱の発表



今年のスピーチは、濱砂陽和くんがアマゾン創業者・ジェフ・ベゾスのプリンストン大学でのスピーチ(抜粋)、黒木柚稀さんが歌手・テイラー・スウィフトのNY大学卒業スピーチ(抜粋)と、粋な内容でした。英語科の先生がプレゼン映像をバックに流してくださり、映像から内容イメージを膨らませながらスピーチに聞き入れることができました！

ギター弾き語り



3年生の竹尾純美鈴さんがギター、一年生の金丸日香さんが歌を担当し、川崎鷹也さんの「魔法の絨毯」を披露してくれました。

♪お金も地位も名誉もないけど君を守りたい…といった、若者の純粋な気持ちを歌う難しい歌をととても美しく力強く演じてくれました！

R4・郷土PRポスター優秀作品！

先月号でも紹介しましたが今年も全校生徒で「郷土PRポスター」制作に取り組

みました。大好きな郷土の風景を切り取り、それに気の利いたキャッチコピーを乗せて

作るポスターです。絵や書が苦手な生徒でも気軽に組みめるので、力作が揃いました。

今年は市の公式インスタの画像提供もあり、とても見ごたえのある作品ができました。



3年・鎌田遼馬
2年・橋口陽帆



3年・竹尾純美鈴
2年・黒木柚稀



2年・加藤まひる
1年・岩倉恋空



3年・金丸心美



3年・山崎侑莉



1年・前田玲美

穂波から壽き田の里

高き希望(のぞみ)を

先日行われた妻高校の創立百周年

式典に、校長職の特典で出席させていた、ただ、機会を得た。私自身も同校の37回卒であるから、感じ入ることの多い一日となったが、県教育長が挨拶で述べた「今この場に居合わせることは意味ある偶然。今日、この空を見上げながら体感したことを大切にしたい。」との件がとても印象に残ったので、この日を振り返ってみたい▼「一九二三年」。社会科教員だった自分には「関東大震災が起きた年」という程度の認識だったが、この日を境に「妻高校誕生の年」という身近な認識に変容した▼「金屏風」。日常では意識することすらないが、式典のステージに据えられたその威容は非日常を印象づけるものであった。金屏風には、その場にいる者の今後が「金色に輝いた未来となるように」という意味があるだという▼「学校長式辞」。礼装の主宰者が述べる言葉は、式典を体現するものだ実感。三浦校長の式辞は実に格調高く、語気はすこぶる穏やか。各参加者に意を配しながら、同校の特長を誇示することなくしつかりと伝えており、まさに孔子のいう「中庸の徳」と感じた。自分を振り返ると背筋の伸びる思いがした▼「西都商業」。高度成長期只中の昭和38年に開校した同校は、多くの歴史と人材を輩出しながらも、時代の趨勢に伴い再び妻高と同じ学び舎となった。制服の歴史や校歌の紹介なども行われたが、同校の歴史や功績は決して忘れてはならないものであり、情比肩科の活躍や地域連携の精神は同校から継承された財産であるとの紹介も受けた▼「同窓会」。ややもすれば「同期生の懇親会」と認識されがちだが、「OB会」としての意味もある。連綿と二六七一人を輩出してきた聖陵会への帰属意識が高まる一日となったが、同日の朝、第一号卒業証書が発見されたニュースは偶然とは到底思えないメッセージである▼式典の最後に現生徒会長が述べた誓いの言葉の結びは、校歌の「いざ磨かん常に清き精神を！」である。確かに、清き精神を磨かねば、本質を見ることができず、学べない。学びことの多かったこの一日に深く感謝いたします。

(校長 伊東泰彦)



金屏風と三浦校長の式辞

【11月・12月の主な行事】

11月

- 4日…入試制度説明会
- 5～7日…中体連県大会
- 10日…校外学習(職場体験、福祉体験等)
- 18日…給食感謝集会
- 24・25日…校内テスト

12月

- 1・2日…みやざき学力調査
- 12日…生け花教室
- 15日…ロードレース大会
- 16日…しめ縄づくり
- 23日…終業式
- 26日…オール西都校則検討委②

第77期生徒会始動!

生徒会長:橋口紗季(2年) 副会長:山崎有璃(2年)

書記:黒木瞳月(1年) 会計:川北莉子(1年)

学習委員長:西田 頼寿(2年)

副委員長:中山 天音(1年)

生活委員長:黒木 柚稀(2年)

副委員長:荒川 栞妃(1年)

保健委員長:堀内 悠陽(2年)

副委員長:橋口 明莉(1年)



76期生徒会(下)と77期生徒会(上)の挨拶

